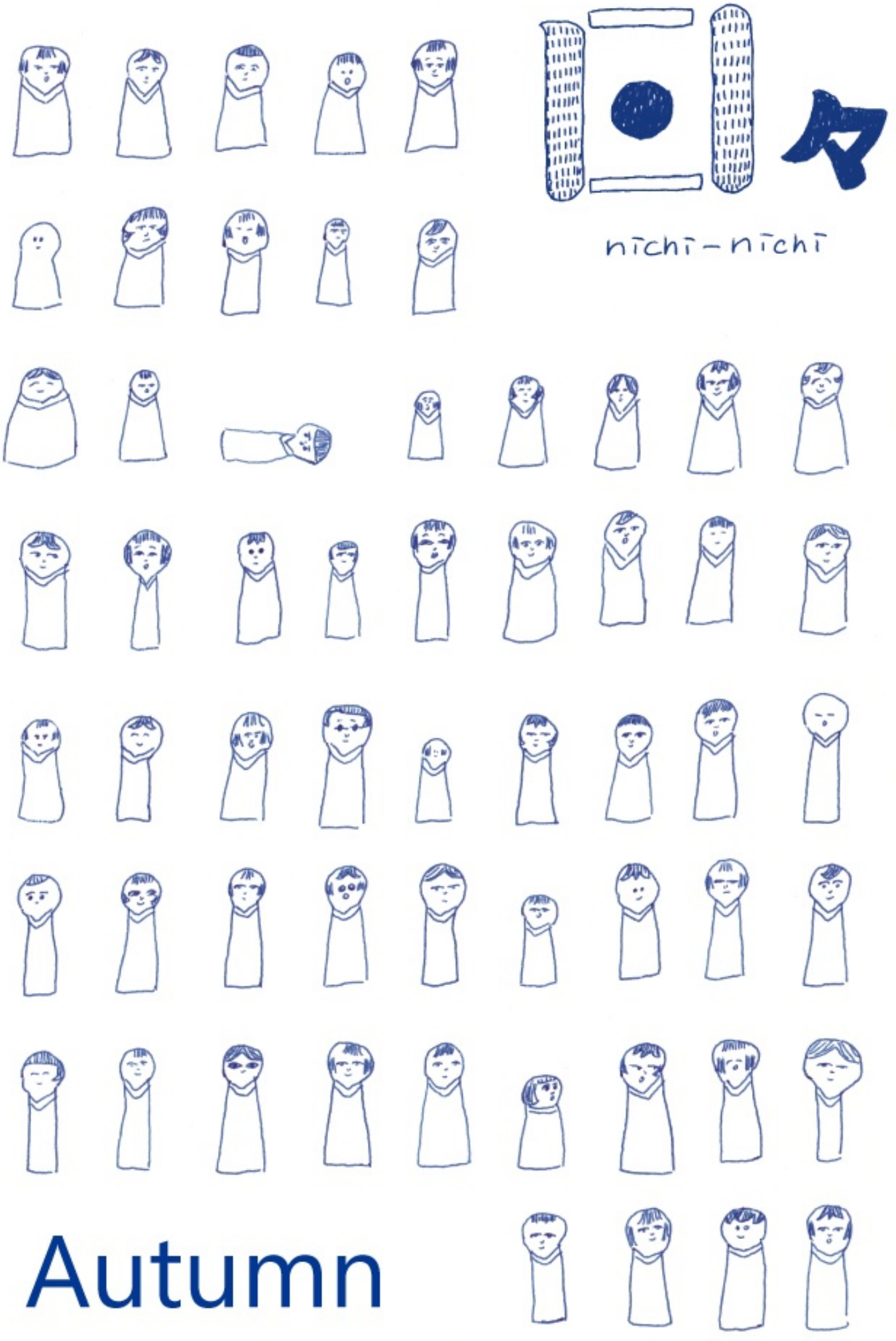


Autumn

「日々のこと」

みなさんはじめまして、こんにちは。

初めてじゃないみなさん、今日もこんにちは。

『日々（にちにち）』は、

想像力を大事にすることをモットーとした《ヨミモノ》です。

知っている人からすればあたりまえのことも、

知らない人からすれば絶好の想像のチャンス。

日々（ひび）の想像は、頭の中の小旅行。

あなたの少しの時間のお供になりますように。

コダマ

「穂のとき」

重うくなったね

ああ、いよいよ重うくなったね

重うく重うくなったね

ああ、いよいよ重うく重うくなったね

夜風にさらさら揺れるね

何だかくすぐったく揺れるね

昼間はきっと見事だろうね

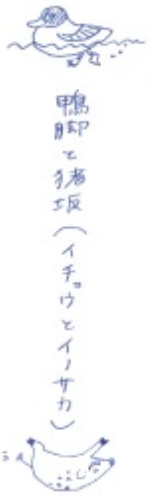
でも夕暮れ刻が一番だよ

宝石が跳ねているようだろうね

ああ、本当にそんな音が聞こえるんだ

名字のはなし

おもしろい名字、珍しい名字から思いついたことを自由にかきます



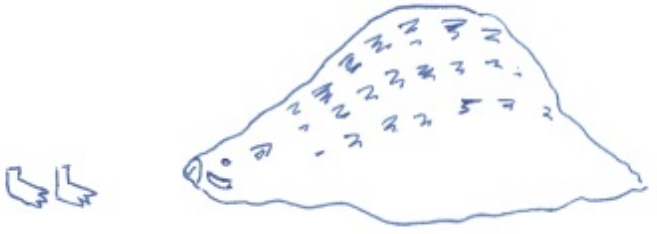
ー世の中にはあちらとこちらがありますー

（成仏ができずにあちらの世界に残ってしまい、肩身の狭い思いをしていた鴨の足。やっとのことであちらとこちらを繋ぐ井戸を見つけ、こちらの世界を目指して井戸の中を歩く…）

真暗で何の気配もない井戸の中、鴨のゴムベラのような足の音だけがぎゅ、ぎゅと鳴り響いていました。普段はこの音を疎ましく思う鴨の足も、このときばかりは心強く思っているようでした。随分と長く歩いたような気がしますが、まだあちら寄りなのか、もうこちら寄りなのか見当もつきませんでした。それでも、どれだけ歩いても不思議と疲れないので歩くしかなかったのです。

いよいよ、これはひょっとして騙されたんじゃないかと思い始めたとき、硬い毛の何かにつまづきました。驚いた鴨の足がその場から逃げ出そうとすると、その何かはすぐさま「お願いだから行かないでくれよう」と悲痛な声で懇願しました。鴨の足がつまづいたのは、死んでしまったことに気づかないで、皆に逃げられながら何十年もこちらの世界で肩身の狭い思いをしていた猪のおばけで、最近になって死んでいることに気づいて、あちらの世界を目指してここまで来たということでした。

鴨の足と猪のおばけは、お互いの世界がどんなに恐ろしく、これまでどんなに惨めな思いをしてきたか語り合いました。そしてお互いの話を聞いたあと、結局自分たちはあちらの世界に行けばいいのか、こちらの世界に行けばいいのか、てんで分からなくなってしまったのでした。（おわり）

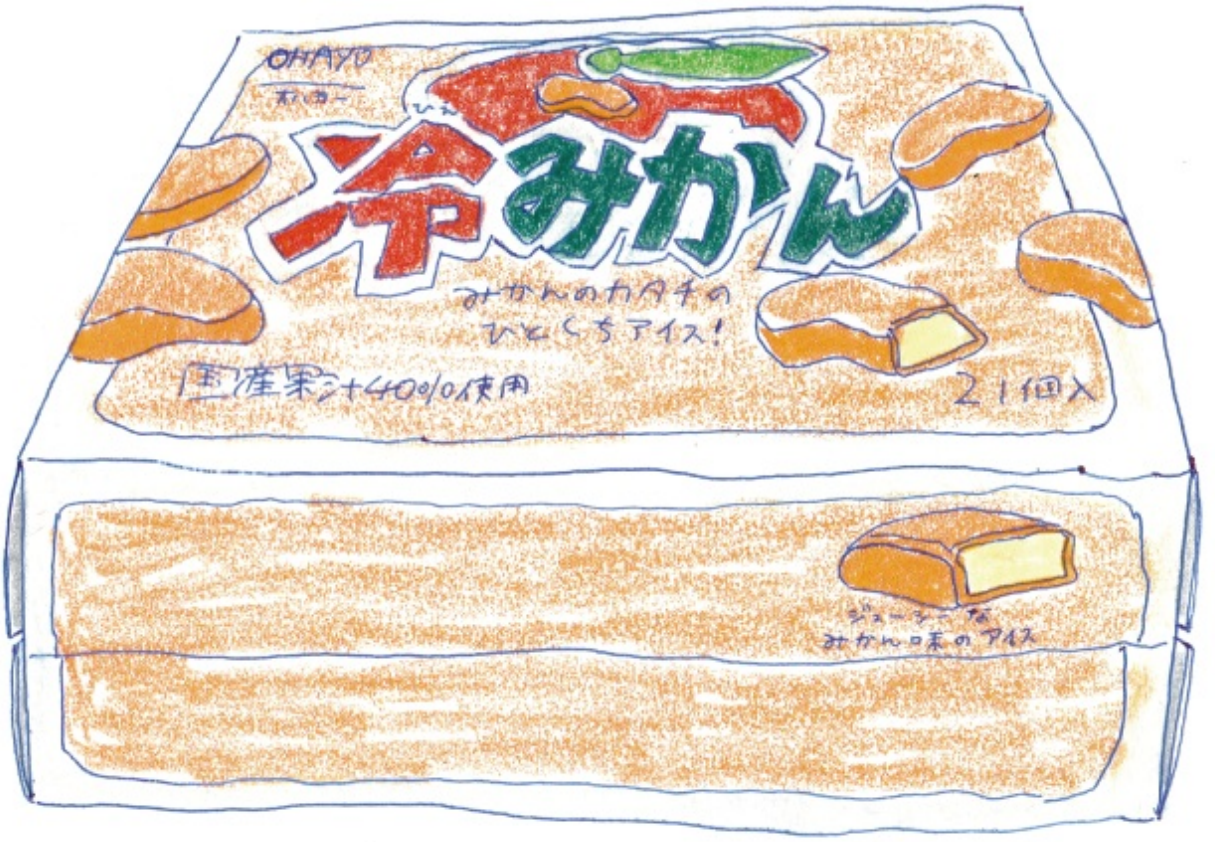


名字のはなしのはなし

「鴨脚と猪坂」後編お届けしました。前編を読んでなかった方、WEB上のバックナンバーで読んでみてくださいね。

霊感が強いとか、信心深いという訳ではありませんが、それでもこの日本という土の血のせいでしょう、いてはるなあ。とふと思う瞬間があります。具体的に形が見える訳ではないですし、何かされることもないので、怖いも有難いもありません。ただただ、いてはるなあ。とそれだけです。そういう感覚は、気をつけていないとどこかへ置いてきてしまいます。置いてきたからといって、どうということも無いのかもしれませんが、何でもないおはなしがこれからも続いていくためには、ちゃんと気をつけていることが大事なのです。

全国の鴨脚さんと猪坂さん、いつもすてきなお名前です。ありがとうございました。

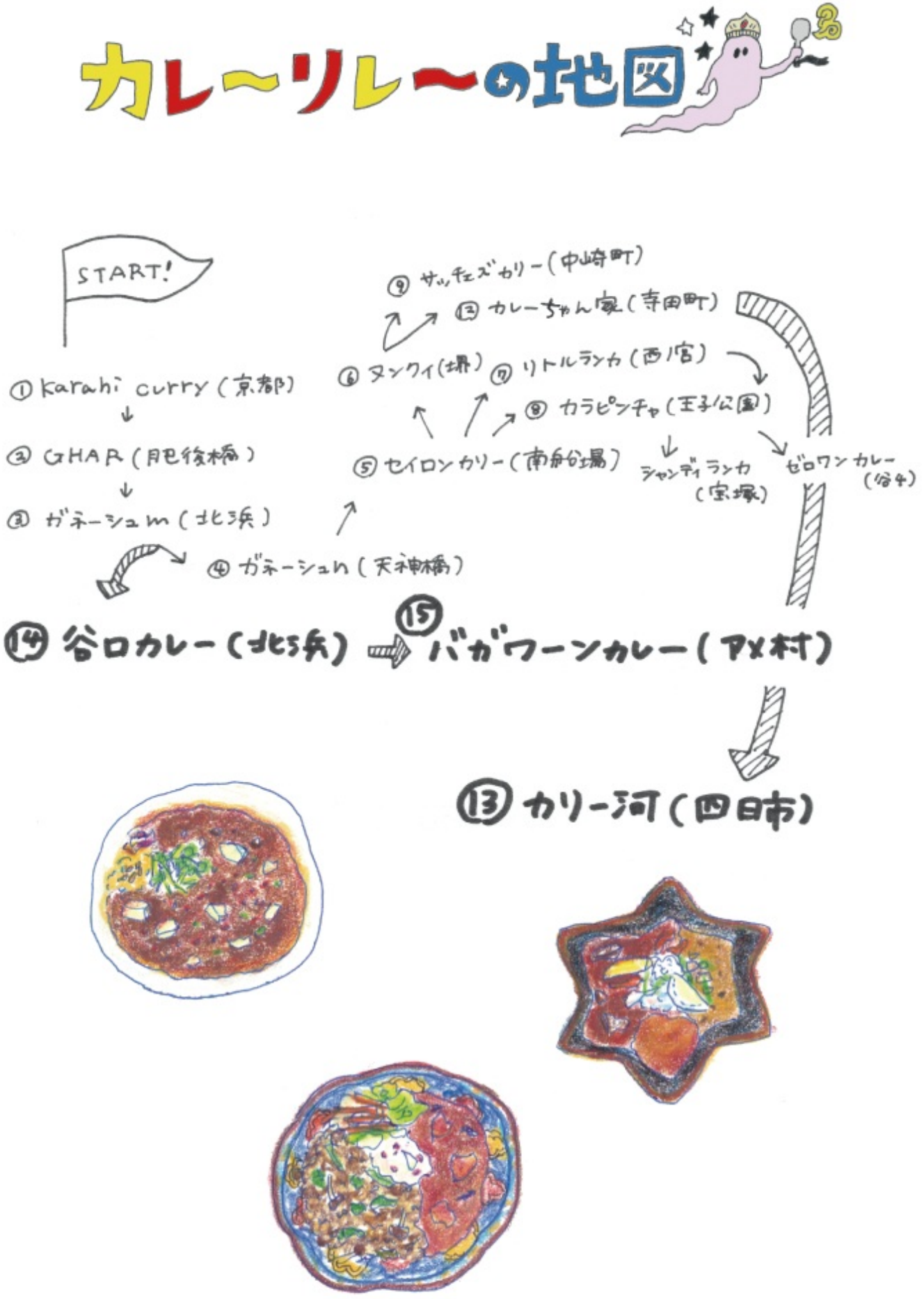

OHAYO
冷みかん
みかんのカケラの
ひとくちアイス!
国産果汁40%使用
21個入
ジューシーな
みかん味のアイス

推しアイス冷みかん

絶品です

おいしいカレー屋さんが教えてくれるカレー屋さんはおいしいはず!
カレー屋さんに導かれカレー屋さんをめぐる旅の記録です。

カレーリレーの地図


カレ〜リレ〜の地図
START!
① karahi curry（京都）
② GHAR（肥後橋）
③ ガネーシュm（北浜）
④ ガネーシュn（天神橋）
⑤ セイロンカリー（南船場）
⑥ ヌンクイ（堺）
⑦ リトルランカ（西宮）
⑧ カラピンチャ（王子公園）
⑨ サッチェズカリー（中崎町）
⑩ カレーちゃん家（寺田町）
シャンディランカ（宝塚）
ゼロワンカレー（谷町）
⑭ 谷口カレー（北浜）
⑮ バガワーンカレー（阿村）
⑬ カリー河（四時）

あれそれカレー

第五回（カレー沼との戦い）

カレーリレーを始めて、かれこれ3年ほど経ちます。カレーは好きですが、生きがいではありません。ぼちぼち、のらりくらり、気が向いた時に楽しんでいます。ところが最近、その気がなかなか向かないのです。趣味だと公言していますし、日々でもページを組んでいるので少々言いにくいのですが、カレーリレーの欠点として自分で次のカレー屋さんを選べないので、苦手な系統のカレー屋さんにぶち当たると、しばらくその沼から抜け出せないのです。まさにカレー沼です。ドロドロのズブズブです。スパイスは好きなのですが、スパイスゴリゴリのカレーは苦手です。スパイスは登校班の副班長的存在でおみそ汁を食べたときのような、じわっと体に染みるカレーが好きです。ところが最近はスパイスを上からふりかけてがりがり、ボリボリ食べるようなカレー勢力が強く、我がカレーリレーもスパイス耐久レースの形相です。みんな、よせ我慢して食べているのだと思い込まないと、そろそろカレーランナーとしての自信を失いそうです。カレー食べに行きたいんだけどなって、勇気がでないなってと、ちょっくらうじうじモードな今日この頃であります。

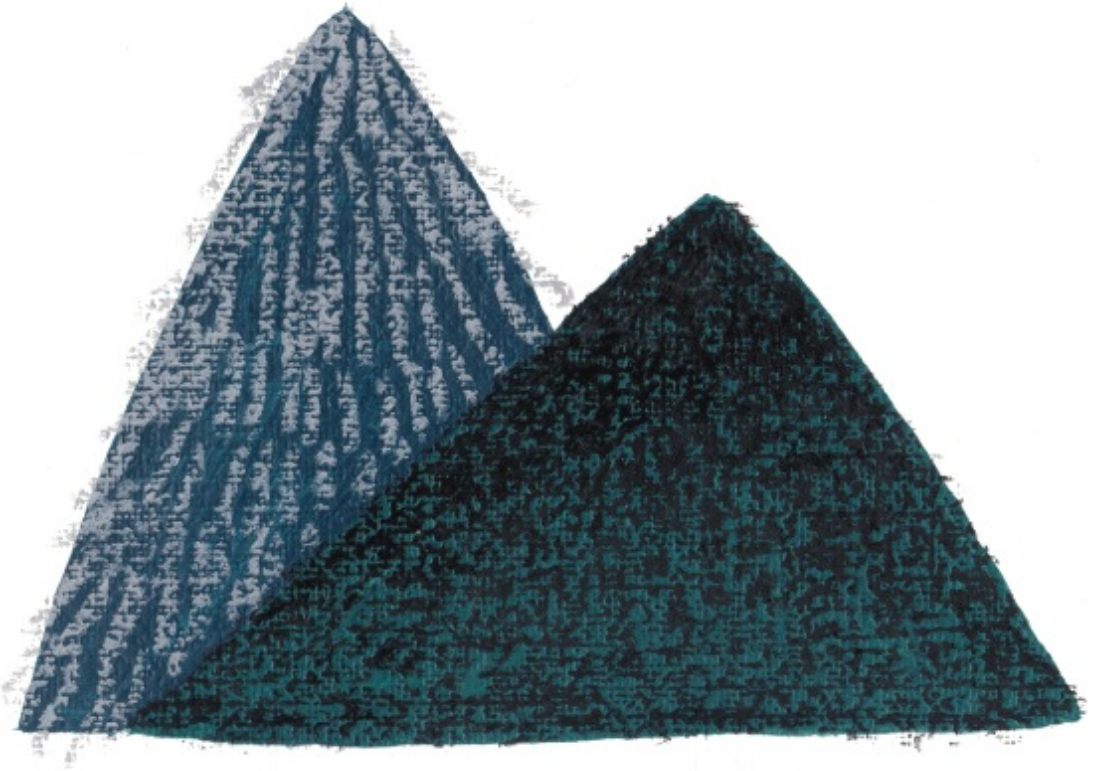
skoshi hanashi（すこしはなし）「獣と皮」

skoshi hanashi
すこしはなし
—Autumn—

もうへとへとのこりごりでうんざりです。心や頭の中に修羅が居座り、これは聖戦だと言い張って誰彼かまわず戦いを挑もうとするのです。ろくに人と話もできやしません。爪は伸び、髪はボサボサ、眼は狂ったようにギラギラと光り、日に日に獣のようになっていくのが自分でも分かりました。通りすがりの人があんまり顔をしかめるので、自分の脱いだ服を確かめると匂いまで獣のようでした。それから、夜眠るのが恐ろしく、朝目を覚ますのが億劫になりました。なぜって、朝布団から出てぐうんと伸びをしたあとに、『さあ、今日は何を喰ってしまおう』と考えている自分が時々居るのです。私はいつか、すっかり人間の心を失くしてしまって、毎日毎日『さあ、今日は何を喰ってしまおう』と考えるようになるのかもしれません。私は自分が恐ろしくって、ほら穴の中でおんおん泣きました。ほら穴に反響した自分の声はまるで獣がうおんうおん吼えているようでした。それで私はますますおんおん泣いて、ますますうおんうおん吼えているようでした。

ある朝目が覚めた時、『さあ、今日は何を喰ってしまおう』と考えていないことに気づきました。私はほっとして人間らしく色々なことを考え、それから『もうここには居てられないな』と思いました。とても人間らしい気持ちでした。

skoshi hanashi（すこしはなし）「獣と皮」



私は里を離れてどこか遠くの山を目指すことにしました。里には父母と姉が居ました。自分より小さい者がいなくなってしまって不憫だろうと思いましたが、でもやっぱりもう居てられないからしょうがないのです。山は周りにたくさんあったので、どの山にしようかと迷いましたが、一番陰気で暗い山へ行こうと決めました。明るい山はきっと思い出してしまって、辛くなるだろうと思ったのです。

里から北の方向に一番暗い山と二番目に暗い山があることを聞きました。四本足をばたばた動かして、北へ北へ向かいました。一番暗い山は見るからに黒色で、名前も黒山でした。二番目に暗い山は見るからに灰色で、名前も灰山でした。一番暗いのは黒山なので本来は黒山に行くべきですが、少し迷って結局二本足をえっさえっさ動かして、灰山を登りました。そのことで少し気に病んで三日間寝込みました。三日間寝込んでからは気持ちも吹っ切れて、よりいっそう獣らしくなりました。人目を避け、すれ違う生き物を睨みつけては脅してまわり、山のてっぺんに近いほら穴の中で孤独に暮らしました。

山で暮らすようになり数年が経つ頃には、腕は四本足で歩くのにちょうどいい角度に曲がり、脚はちょうどいい長さにすり減りました。そのちょうど良くなった四本足を、上手く

とっさとっさ動かして茂みの中に身を隠しました。そうして通りかかったものは何でも頭から一呑みにしてしまおうと思いましたが、実際にはそうはしませんでした。ただ、私の姿はよっぽど恐ろしいとみえて、歯をガチガチ鳴らし、爪と爪を合わせて響かせるだけで、どんなに威勢のいい生き物でも矢の如く逃げていき、二度と顔を見せませんでした。

私は灰山の中で最もおぞましい獣ですから、鳥は私の上を飛ぼうとしませんでしたし、虫も私の下を這おうとはしませんでした。しかし、木や草だけはじっとそこにありました。そこにあって、私を見下ろしたり見上げたり色々でした。そのことがあんまり辛いので、灰山を逃げ出して生き物どころか木や草さえない山を探し求めました。

ここからうんと南へ行ったところに、木や草もない万年火を噴く火山があることを聞き、その火山を目指すことにしました。途中、家族の様子をみに里に寄ろうかと思いましたが、今の私はどこからどう見ても恐ろしい人喰らいの獣です。そんなことを考えるのはやめにしました。

里を通り過ぎ、三日三晩歩き続け、やっとのことで赤ぁく赤ぁく燃える万年火山のふもとに辿り着きました。山の上からは岩や灰が容赦なく降りそそぎ、それは私の背中に積もって硬い毛や皮膚を焼きました。葬儀場で人間を焼く時と同じ

匂いがしていました。頭のてっぺんから足の先までボウボウ燃えて獣の皮がすっかり剥がれ落ちると、赤ん坊のようにふやけたまっさらな体が戻ってきました。頼りない二本足をぐらぐら震わせて立ち上がり、その場でおんおん泣くと、まっさらな体の上を涙の粒が転がりました。しばらく泣いて気が済むと、足元に剥がれ落ちた獣の皮を拾い上げ、忘れてしまうことのないよう、大事にしまい込みました。そして『もうここには居てられないな』と今度は明るい気持ちで思えたのでした。

―獣と皮―

獣と皮あとがき

仏教の六道のひとつに、「修羅道」があります。心や頭の中に修羅が居座るというのは、どうしようもない怒りに呑み込まれ、人間生活が儘（まま）ならなくなった状態のことです。

今回のおはなしは、少しヘビーでしたね。どんな風に読んでもらえるのだろうかと、気になります。あとがきらしいあとがきが書けませんでしたが、これにて。

バックナンバーが、webで読めるようになりました！

2016summerからスタートした日々（にちにち）。
ブクログの「Puboo（パブー）」でバックナンバーの掲載も始めております。情報無発信型のフリーペーパーですが、最新号とあわせてお楽しみください！

〔アクセス方法〕

こちらのQRコードまたは、「パブー　にちにち」で検索！

〔日々設置店リスト〕

—TOKYO—

・ONLY FREE PAPER ヒガコプレイス店

—OSAKA—

・アオツキ書房

・FOLK old book store

・cafe gallery タロイモ

・gallery yolcha

—KYOTO—

・ホホホ座　浄土寺店

・只本屋

・誠光社

・tomarigi

・六曜社珈琲店

・kara-S

—FUKUOKA—

・スピタルハコザキ内　FREHAKO!

—☆SPECIAL☆—

・くまもと森都心プラザ図書館

・福岡東図書館

・MUJI BOOKS 岡山ロッソ店

etc・・・

＊「日々（にちにち）」設置店は予告なく変更となる場合もあります

日々

nichi-nichi

2017 Autumn号

イラスト＆文：コダマ

mail : codama235@gmail.com

～日々を読んだ感想、又コダマに興味を
持って下さった方のご連絡をお待ちして
おります～